

機械器具 22 検眼用器具
一般医療機器 近点距離計 JMDNコード:12821000

KOWA NP アコモドメーター

【形状、構造及び原理等】



1. 構成
本機器は、
本体
アゴ台
から構成されており、組み合わせ又は単品で販売
されることがある。
2. 体に接触する部分の組成
見口カバー 合成樹脂
額当て アルミ合金
応答スイッチ 合成樹脂
3. 電磁両立性
本機器は、IEC 60601-1-2:2001 に適合している。
4. 電気的定格
電源電圧 AC 100V
入力相数 単相
電源周波数 50Hz 又は 60Hz
電源入力(消費電力) 70VA
5. 機器の分類
1) 電撃に対する保護の形式による分類
クラス I 機器
2) 電撃に対する保護の程度による装着部の分類
B 形装着部
6. 寸法及び質量
(本体)
550 mm(W)×230 mm(D)×335 mm(H)/9 kg
(アゴ台)
375 mm(W)×150 mm(D)×145~185 mm(H)/1 kg
7. 作動原理
連続近点測定には現出近点測定と消失近点測定が
ある。
現出近点測定の原理: 視標が 50 mm の距離から遠方
に移動する。被検者は視標がはっきり見えた位置で
応答スイッチを押す。近点が表示される。
消失近点測定の原理: 視標が 400 mm の距離から近
方に移動する。被検者は視標がはっきり見えなくな
った位置で応答スイッチを押す。近点が表示される。

詳細は、「取扱説明書」をご参照ください。

【使用目的、効能又は効果】

近点距離計測に用いる眼科用機器として使用する。

【品目仕様等】

測定範囲	50~400mm
視標の移動速度	高速 50mm/sec 低速 25mm/sec
視標の明るさ	160cd/m ²
眼幅調整範囲	55~75mm
額当て調整量	25mm
アゴ載せ上下動量	38mm

詳細は、「取扱説明書」をご参照ください。

【操作方法又は使用方法等】

1. ローレットを回して、被検眼の角膜頂点を目盛板
の線に合わせる。
2. 眼幅ノブで被検者の眼幅に合わせる。
3. 検査眼スイッチを押して、左眼、右眼、両眼のい
ずれかを選択する。
4. スタートスイッチを押す。内部の視標が点灯し、
移動する。
5. 現出近点測定の場合、被検者に、視標がはっきり
見えた時点で応答スイッチを押させる。消失近点
測定の場合、被検者に、視標がはっきり見えな
くなった時点で応答スイッチを押させる。被検者の
応答後、視標が消え最初の位置に戻り、再び視標
が点灯し検査を始める。

詳細は、「取扱説明書」をご参照ください。

【使用上の注意】

(一般的な注意事項)

1. 熟練した者以外は機器を使用しないこと。
2. 機器を設置するときには、次の事項に注意するこ
と。
 - 1) 水のかからない場所に設置すること。
 - 2) 気圧、温度、湿度、風通し、日光、ほこり、塩
分、イオウ分などを含んだ空気などにより悪影
響の生ずるおそれのない場所に設置すること。
 - 3) 傾斜、振動、衝撃(運搬時を含む)など安定状
態に注意すること。
 - 4) 化学薬品の保管場所やガスの発生する場所に
設置しないこと。
 - 5) 電源の周波数と電圧及び許容電流値(又は消費
電力)に注意すること。
 - 6) 電池電源の状態(放電状態、極性など)を確認
すること。
 - 7) アースを正しく接続すること。
3. 機器を使用する前には次の事項に注意すること。
 - 1) スwitchの接触状況、極性、ダイヤル設定、メ
ーター類などの点検を行ない、機器が正確に作
動することを確認すること。
 - 2) アースが完全に接続されていることを確認す
ること。
 - 3) すべてのコードの接続が正確でかつ完全であ
ることを確認すること。
 - 4) 機器の併用は正確な診断を誤らせたり、危険を
おこすおそれがあるので、十分注意すること。
 - 5) 患者に直接接続する外部回路を再点検するこ
と。
 - 6) 電池電源を確認すること。
4. 機器の使用中は次の事項に注意すること。
 - 1) 診断、治療に必要な時間・量をこえないように
注意すること。

取扱説明書を必ずご参照ください。

- 2) 機器全般及び患者に異常のないことを絶えず監視すること。
- 3) 機器及び患者に異常が発見された場合には、患者に安全な状態で機器の作動を止めるなど適切な措置を講ずること。
- 4) 機器に患者がふれることのないよう注意すること。
5. 機器の使用後は次の事項に注意すること。
 - 1) 定められた手順により操作スイッチ、ダイヤルなどを使用前の状態に戻したのち、電源を切ること。
 - 2) コード類のとりはずしに際してはコードを持って引抜くなど無理な力をかけないこと。
 - 3) 付属品、コード、導子などは清浄にしたのち、整理してまとめておくこと。
 - 4) 機器は次回の使用に支障のないよう必ず清浄にしておくこと。
6. 故障したときは勝手にいじらず適切な表示を行ない、修理は専門家にまかせること。
7. 機器は改造しないこと。
8. 取扱説明書に書かれている注意事項を熟読し、遵守すること。
9. 使用環境
 - 1) 周囲温度 10～40℃
 - 2) 相対湿度 30～75%（結露しないこと）
 - 3) 気圧 700～1060hPa

（当該機器固有の基本的注意事項）

検査を実施する際には、本機器が倒れたりしないように注意すること。

〔被検者が負傷するおそれがあります。〕

（その他の注意事項）

この機器を廃棄する場合は、産業廃棄物となります。必ず地方自治体の条例・規則に従い、許可を得た産業廃棄物処分業者に廃棄を依頼してください。

その他「取扱説明書」を熟読し遵守してください。

【貯蔵・保管及び使用期間等】

1. 有効期間（耐用期間）は、正規の保守点検を行った場合に限り 5 年間です。（自己認証[当社データ]による。）
2. 貯蔵・保管環境
 - 1) 周囲温度 -15～+60℃
 - 2) 相対湿度 10～95%（結露しないこと）
 - 3) 気圧 700～1060hPa
3. 保管場所については次の事項に注意すること。
 - 1) 水のかからない場所に保管すること。
 - 2) 気圧、温度、湿度、風通し、日光、ほこり、塩分、イオウ分を含んだ空気などにより悪影響の生ずるおそれのない場所に保管すること。
 - 3) 傾斜、振動、衝撃（運搬時を含む）など安定状態に注意すること。
 - 4) 化学薬品の保管場所やガスの発生する場所に保管しないこと。

【保守点検に係る事項】

（使用者による点検事項）

1. 電源コードに傷、破損がないことを目視で確認する。
2. 外装および外観から見える光学部品に、汚れ、傷、

割れ、変形、錆がないことを目視で確認する。

3. 銘板に汚れ、剥がれがなく表示が読めることを目視で確認する。
4. 初期設定（現出近点、低速、両眼）で連続近点検査を行い、応答スイッチを押したときに、視標ランプが消え、次の近点測定に進むことを確認する。
5. マニュアルスイッチを押して、視標を 300mm 付近に移動させる。検査眼スイッチで左眼を選択し、マニュアルスイッチを押して視標を点灯させる。左眼で左側の視標の点灯を確認する。右眼では視標は見えないこと。同様に右眼、両眼でも確認をする。
6. ローレットを回し、額当てがスムーズに動作することを確認する。
7. 眼幅調整ノブを左右に動かし、スムーズに眼幅調整ができることを確認する。
8. プリント用紙が確実にセットされており、残量も適切であることを目視で確認する。

（保守点検に係るその他の注意事項）

1. 医療機器の使用・保守の管理責任は使用者にあります。
2. 日常点検、定期保守点検は必ず行ってください。
3. しばらく使用しなかった機器を再使用する場合には、使用前に必ず機器が正常にかつ安全に作動することを確認してください。
4. なお、使用者自ら定期点検ができない場合は、当社サービス部門の関連会社で受託することができます。

詳細は「取扱説明書」をご参照ください。

【包装】

包装単位：1 台／1 梱包

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称及び住所等】

（製造販売業者）

興和株式会社 電機光学事業部
東京都中央区日本橋本町 3-4-14
TEL (03)3279-7334
FAX (03)3279-7541

（製造業者）

株式会社サンテック
興和株式会社